2-5-1 断層モデルの構築

東京大学地震研究所

R2年度の予定

●日本海側の断層モデルの構築作業

→2-5-1　地震活動や2-5-2 構成岩石の検討結果をとりこみ、地震発生層の下限や形状のとりまとめを行う。日本海の断層モデルの最終的な構築

●強震動用の断層モデル

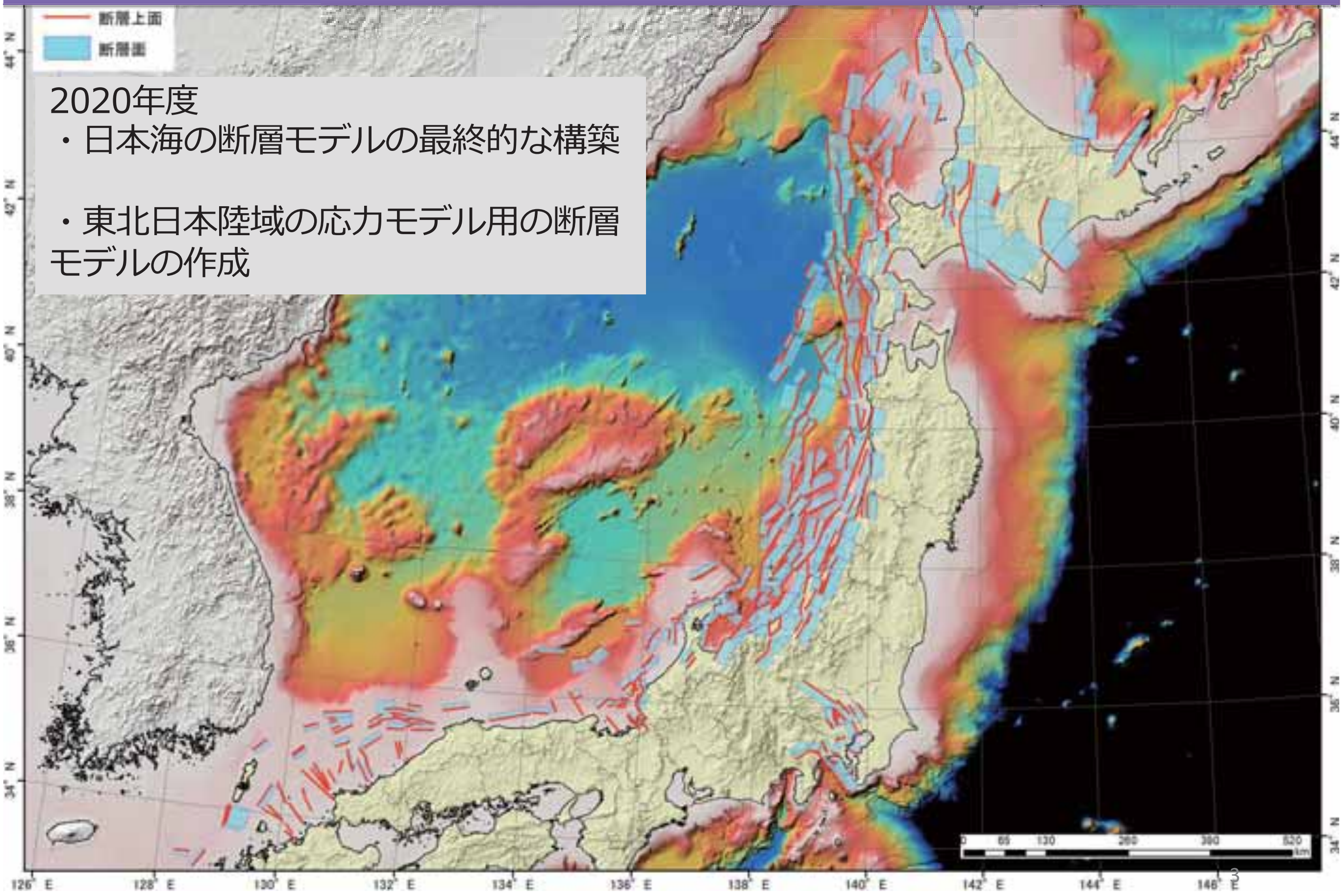
R1年に実施した庄内平野について、探査データを基軸にして強震動用の断層モデルを構築する。

R2年に実施する津軽半島での構造探査結果を基に、津軽半島周辺の断層モデルを構築する。

● 2-6 「海溝型地震と内陸沿岸地震の関連メカニズムの評価準備」のための応力評価用の断層モデルを作成する

東北地方陸域

断層モデルの今後のまとめ



2020年度
・日本海の断層モデルの最終的な構築

・東北日本陸域の応力モデル用の断層モデルの作成

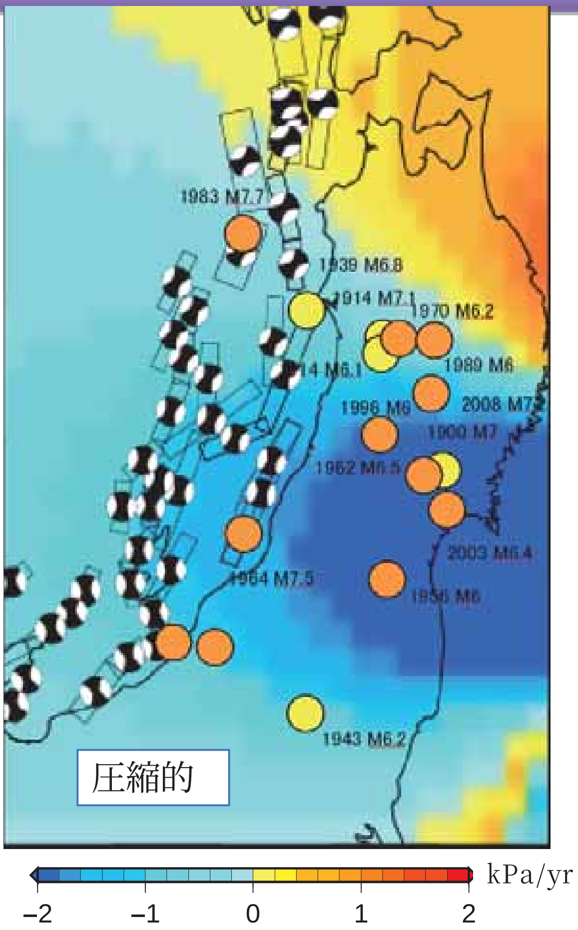
断層モデルの構築　（最終調整）

日本海海域と沿岸で約230条の断層をマッピング
逐次構築したために統一的な規格化が必要

・名称の統一
・断層面積による小規模断層の削除

震源断層の追加　（若狭湾東部など）

クーロン応力の蓄積率を求めるための震源断層モデル



地震前の応力蓄積速度
（固着の効果により計算）
と内陸被害地震

M6以上の地殻内地震

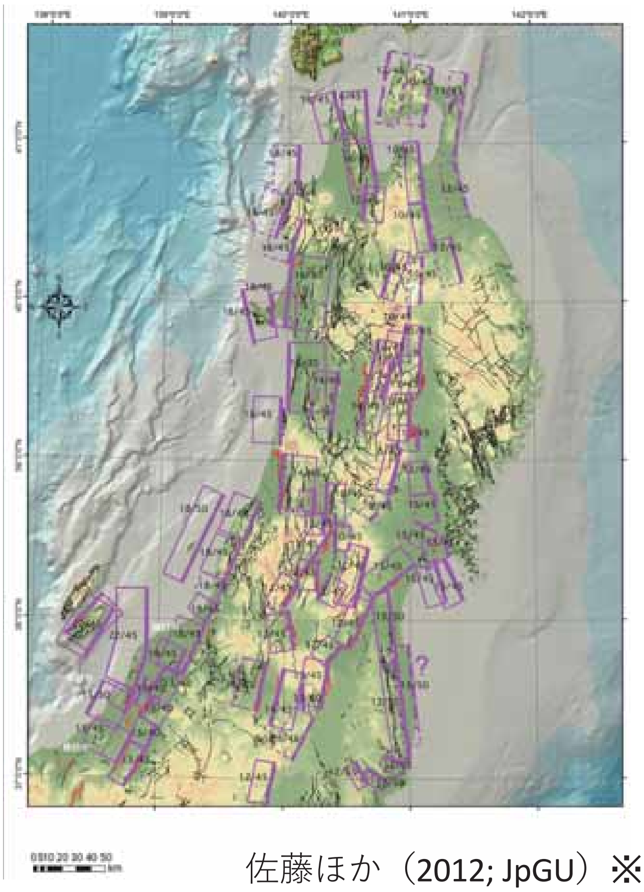
1900-1950

1950-2011.3

H27年度報告（2-2-6）

東北日本の陸域も含めた震源断層モデルを作成

クーロン応力の蓄積率を求めるための震源断層モデル



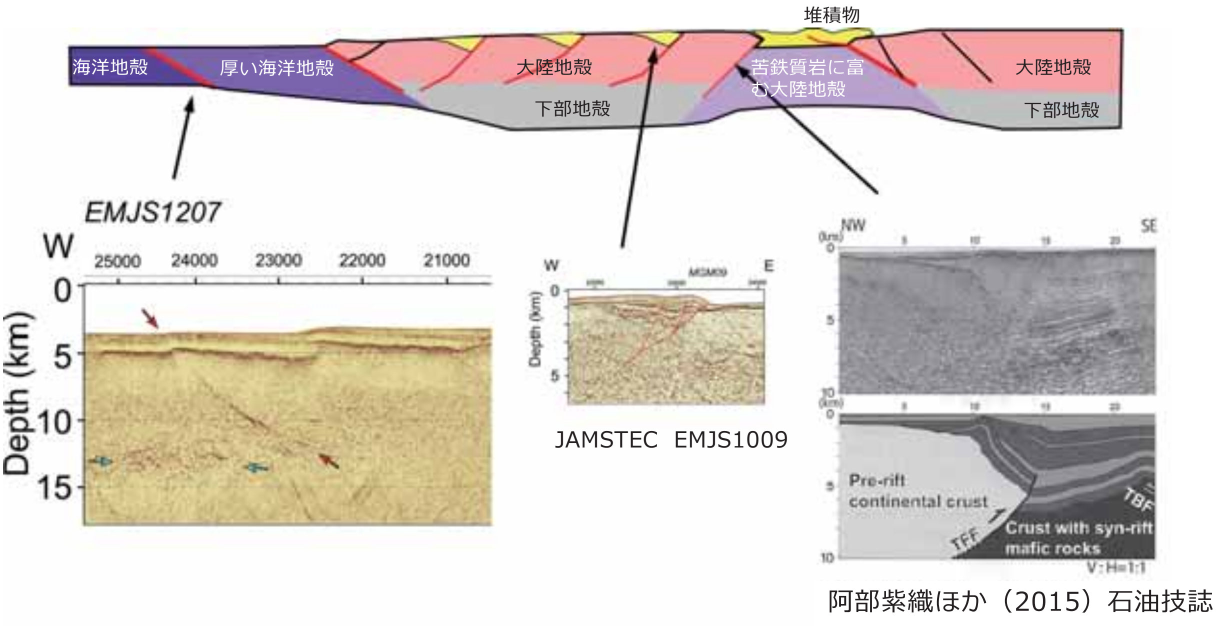
D90(2-5-2)やレオロジー(2-5-3)の知見を反映させた震源断層モデルを構築中。

断層の位置・形状についても検討中。

三次元FEMにより、クーロン応力の蓄積速度を求め過去地震と比較
　サブテーマ2-2-6

佐藤ほか（2012; JpGU）※Update必要

形成史に基づく震源断層モデルの理解



阿部紫織ほか（2015）石油技誌

低角度　＜30°

中角度　40-60°

低角度　30°＋